

伊勢管弦楽団のすばらしい仲間、そして同団員でもある妻の佳子に捧ぐ

音楽における永遠をめざして
—— 音楽のパトグラフィー2 ——

目次

第1章 音楽における永遠性を求めて

—— 伊勢管弦楽団との2004年以降10年間の歩み —— …… 9

はじめに	9
Ⅰ クラシック音楽とプロ・オーケストラの危機	10
Ⅱ 伊勢管弦楽団の最近のプログラムについて	11
Ⅲ 表現者としてのオーケストラと指揮者	12
Ⅳ 演奏における感動	14
おわりに	15

第2章 大作曲家における聴覚障害の受容

—— ベートーヴェン、スメタナ、フォーレの場合 —— ……17

はじめに	17
Ⅰ ベートーヴェンの場合	17
1. ベートーヴェンの生涯	17
2. ベートーヴェンの作風の変遷と聴覚障害	20
Ⅱ スメタナの場合	22
1. スメタナの生涯	22
2. スメタナの作風の変遷と聴覚障害	25
Ⅲ フォーレの場合	26
1. フォーレの生涯	26
2. フォーレの聴覚障害が作曲にもたらしたもの	28
Ⅳ 聴覚障害のもたらした影響	30

第3章 レナード・バーンスタインにおける 中年期危機とその後の音楽活動…………… 34

はじめに	34
Ⅰ バーンスタインの生涯	35
Ⅱ バーンスタインにおける中年期危機	37
1. 中年期危機について	37

2. バーンスタインの場合	38
Ⅲ バーンスタインの音楽創造における中年期以降の変遷	42
1. 作曲活動において	42
2. 指揮活動において	42
おわりに	45

第4章 モーツァルトの短調作品にみられる自由…………… 47

はじめに	47
I モーツァルトの短調作品とその特徴	48
II モーツァルトの交響曲第40番ト短調	50
1. 交響曲第40番について	50
2. 曲の分析	51
Ⅲ モーツァルトの生涯にみられた人生観・死生観	53
Ⅳ 後世のモーツァルト観	55
おわりに	56

第5章 発達障害児の音楽療法についての一考察 —— 音楽学と発達臨床心理学の関連から —— …………… 58

はじめに	58
I 音楽療法からみた音楽史	58
II 音楽療法からみた音楽の基本要素	60
1. リズム	60
2. 旋律（メロディー）	61
3. 和声（ハーモニー）	61
4. 音組織と調性	62
5. 拍節構造	62
6. テンポ	62
7. 声と楽器	63
Ⅲ 発達臨床心理学の立場からの音楽療法	63
おわりに	64

第6章 ベートーヴェン晩年の様式

—— 超越性とスピリチュアリティ —— 67

はじめに 67

I ベートーヴェンの生涯 —— 中年期以降を中心に —— 68

II 晩年の様式について 70

1. カンタービレ的要素と自由化 71

2. 宇宙的響きと宗教性 72

3. ポリフォニーの多用 74

III ベートーヴェン晩年の作品にみられる超越性・宗教性 74

1. 超越性・宗教性とスピリチュアリティ 74

2. ベートーヴェンの晩年作品とスピリチュアリティ 76

おわりに 78

第7章 マーラーの交響曲第8番の志向する超越性

—— マズローの至高体験と関連して —— 80

はじめに 80

I マーラーの生涯 —— 交響曲第8番完成までの軌跡 —— 81

II マーラーの交響曲第8番 84

1. 成立の事情 84

2. 曲の分析から 85

III 超越性について 88

1. 音楽における超越性 88

2. 心理臨床における超越性 89

3. マーラーの交響曲第8番の志向する超越性 91

おわりに 93

第 8 章 マーラーの交響曲第 9 番の分析

—— 永遠への志向 —— 95

はじめに 95

I 交響曲第 9 番の成立過程 96

1. 1908 年以降のマーラー 96
2. 死と告別という主題について 98

II 文化史・音楽史におけるマーラーの交響曲第 9 番 100

1. 20 世紀における交響曲の衰退 100
2. 世界大戦前のオーストリア 101

III 楽曲分析 102

1. 全体的特徴 102
2. 第 1 楽章 103
3. 第 2 楽章 106
4. 第 3 楽章 106
5. 第 4 楽章 108

IV 心理臨床に示唆するところ 110

おわりに 112

付 録：伊勢管弦楽団定期演奏会曲目（2004 年以降 10 年間のもの）..... 114

あとがき..... 115